

第6学年4組 国語科学習指導案

指導者 川崎市立宮崎台小学校 高橋 恵

1. 日時・場所 平成24年7月4日(水) 13:30～ 第6学年4組教室

2. 単元名 「私の主張 ～平和について考える～」

3. 単元目標

- ・意見を明確に伝えるために図書資料を活用して友だちと情報を交換し合い、平和に関する自分の考えを広げたり深めたりする。
- ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えて意見文を書く。
- ・話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで平和に関する意見を主張する。

4. 評価規準

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	話す・聞く能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを明確に表現しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。 ・「事実」と自分の感想、意見などを区別して書いている。 ・引用して、自分の考えが伝わるように書いている。 ・文章全体の構成の効果を考えて文章に書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話している。 ・場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張している。 ・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んで読んでいる。 ・話し言葉と書き言葉との違いに気付いている。

5. 単元について

(1) 児童の実態と目指す子ども像について

①児童の実態

読書好きな子が多く、学校図書館に熱心に通ったり、ブックトークなどで紹介した本を教室に置いておくと手にしたりする。「最近夢中になっていること」をテーマにスピーチをしたときには、「読書」を挙げる子が多かった。叙述をもとに登場人物の気持ちを読み取ったり、場面の様子を感じ取ったりでき、4月の「カレーライス」の学習では登場人物の感情の変化に注目して読むことができた。

また、自分の考えや思いを表現・発表することが好きな児童も多い。自分の考えや思いを、これまでの経験や知識をもとに書いたり話したりことを5年生から行っている。新聞の記事や本を紹介した後に、筆者の伝えたいこととそれに対する自分の考え(意見文)を書く時間を設けたこともある。文章の要旨やキーワードを見つけ出すことは、何度か経験を積んで、少しずつできるようになってきた。

5月の「学級討論会をしよう」の学習では、「説得力のある主張」をするためには「根拠」が必要だということを学習した。説得するために、子どもたちは図書資料やインターネット、インタビューなどを通して情報を集めた。その情報から大切な部分を取り出して討論会に臨むことができた。これまで自分の経験や知識だけに頼っていた部分を図書資料やインターネットなどを用いたことで、考えに深まりが出るようになってきている。

②目指す子どもの姿

子どもたちにとって「戦争」は歴史の中の過去のもので、身近なこととしてほとんど考えることのない出来事になりがちである。今回は、教科書の資料「平和のとりでを築く」を通して過去の出来事を知り、さらに「平和」について自分の意見をもつことで、「平和」ということが身近なこととして考えられるようにさせたい。

今回の学習では、意見文を書くために図書資料を活用していくが、自分の意見の正当性を確認し、さらに深まりや広がりを与えてくれる図書資料を探し出せるようになってほしい。そのために、自分の求める情報を題名、目次、索引などから見当をつけて見つけられるように指導していく。図書資料に出会う中で、当初自分の求めていた仮の要旨とは異なる情報を見つけることもあると思う。そうなった場合には、仮の要旨と選書のめあてに立ち戻りながら図書資料や情報を選んでいくことが大切になってくる。また、多くの情報に触れる中で得られた情報によって、仮の要旨をさらに深めてほしい。

また、図書資料を友だちと紹介し合い、情報を広げたり深めたりすることを通して、自分の意見をより多角的な方面から考えたり、対立する意見も意識しながら具体的な資料をよりどころにして相手に自分の考えを効果的に話したりできる子を育てていきたい。さらに、意見を文章で書くときには、調べた情報を羅列していくのではなく、文章全体の構成を考えながら事実と自分の考えを区別して文章を書けるように指導していく。

(2) 単元設定の理由

この単元は、「平和」についての意見文を書くことと、スピーチで主張をするという二つの言語活動を行う。そして、ねらいに迫るために、図書を活用していく。

自分の意見をもつためには、まず課題設定が大切である。ここでの課題は、自分の経験に基づいて考えたものに加えて、「平和のとりでを築く」を読んでさらに調べたいと思って設定したり、友だちと考えを交流し合ったりすることで設定する。

意見文を書くにあたっては、自分が伝えたいことに、より説得力をもたせる資料を探す。じっくり読んで、自分に必要かどうか考えることや、何度でも手にとって読み返すことのできる図書のよさを生かして活動させたいと思う。その際には、学校図書館のものに加えて、宮前図書館からも団体貸し出しを行い、子どもに合った様々な資料を用意することにした。そして、事前に、できるだけ子どもたちの思いにそった配架をしておきたい。その配架の見取り図を用意し、資料をさがす支援のひとつにする。

しかし、「平和」をキーワードにした膨大な情報量の中から、自分の意見に必要な事例や資料を見つけ出すことは容易ではない。一番大切なことは、自分が欲しい資料はどんなものなのかという目的意識を明確に持つことだと思う。資料にあたる前に、キーワードをしっかりと考えさせておきたい。

さらには、調べ学習の導入で、教師がブックトークを行うことで、それぞれのコーナーにどんな本があるのかを知らせ、資料を探す手掛かりをもたせることにする。また、本の題名だけでなく、目次やまえがき、索引や肩見出しなどの使い方を理解して資料にあたるようにすることも、大切なことだ。そして、探し出した本は、資料カードに簡単にメモすることと、その本のページに付箋をつけておくことで、再びその図書がすぐに手にしやすいようにしておく。資料カードは、意見文を書く時には、取捨選択したり、構成を考えたりすることにも利用することができる。加えて、友だちとの情報交換を行うことでも、さらに多角的に図書にあたることができるようにと考えてみた。そうやって調べていく中で、自分の考えが明らかになることを体験させたいと思う。

スピーチにおいては、集めた資料を提示しながら、聞き手に納得させることをねらいにしたい。単に書き言葉を話し言葉に直すだけではなく、話し言葉は発せられた途端に消えていき遡って内容を確認することができないことや、複雑な構文や誤解されやすい同音意義語を避けることなど、音声言語の様々な表現上の特質を理解させて活動にあたらせたい。

意見文を書いて意見文集にまとめたところで夏休みを迎える。子どもたちは終戦記念日を前後して様々な情報をテレビや新聞などで目にするだろう。また、長い休みを利用して平和にゆかりのある土地への旅行をする家庭もあるだろう。それらの経験をいかしながら、「平和」を更に自分の身近なこととして感じてスピーチ大会に臨むことができるようにと願っている。

6. 研究テーマとの関わり

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

－ メディア活用で育てる情報活用能力，メディア活用で伸ばす確かな学力 －

「子どもたちの『情報活用能力』を育成するためには、子どもたち自身が様々なメディアの特性を生かしながら適切に活用して問題解決に取り組む学習活動の充実が大切である。」川崎市立小学校情報教育研究会ではこのような考えのもと、上記の研究テーマを掲げ、数年来、授業研究を進めてきた。

今回の取り組みでは、

- 「メディア活用で伸ばす確かな学力」の要素に重点を置く。
- 扱うメディアの中心を図書資料におく。
- 日頃の授業づくりに役立つような内容を提案する。

といった点を意識しながら学習指導案を作成した。

最高学年である高橋級の子どもたちは、これまでに図書やインターネットでの検索、インタビュー等の取材活動などの経験を重ね、自分の考えを広げたり深めたりする体験をしてきている。また、教師のブックトークを聴いたり、学校図書館へ熱心に通ったりと日常的に読書に親しんでいる。

本単元では、子どもたちが図書メディアを活用して自分の意見の正当性を確認し、さらに深まりや広がりを与えてくれる図書資料を探し出すことを通して、「平和」についての意見文を書けるようになることを目指している。そのためには、「自分の意見に説得力をもたせられる資料」を、たくさんの本の中から見つけ出し、意見文の作成に生かすことが重要な活動となるだろう。何度も手に取ってじっくりと読み返すことができる図書の良さを生かし、説得力のある内容をもった意見文を書くための資料を集められるような調べ活動となるようにしたい。

本実践では以下のような具体的な手だてを講じている。

- 学校図書館に加えて、市立宮前図書館からも図書の団体貸し出しを行い、子どもに合った様々な資料を用意する。
- 表紙から受ける印象を大事にして、本を並べておくようにする。
- 配架の見取り図を用意し、子どもが資料を探す際の支援のひとつにする。
- 子ども自身が立てた「仮の要旨」から導き出したキーワードを、子どもにしっかりと意識させる。
- 子どもの求める情報を題名、目次、索引などから見当をつけて見つけられるように指導する。
- 調べ学習の導入で教師がブックトークを行うことで、それぞれのコーナーにどんな本があるのかを子どもに知らせ、資料を探す手掛かりをもたせる。
- 探し出した本は、資料カードに簡単にメモすることと、その本のページにクラス毎に色を決めた付箋をつけておくことを子どもに指導することで、学年全体で活動を行っても再びその図書がすぐ手にしやすいようにしておく。

子どもたちにとって身近な情報メディアである図書を、どのように活用させ、教科の目標を達成させていくのかについて、指導計画とその手だてが有効であったかを検証していこうと考えている。

7. 学習指導計画（15時間）

次	時	評価規準と評価方法 (☆)	主な学習活動	指導上の留意点
一	1	<p>【関】自分の考えを明確に表現しようとしている。 ☆発言，ノート</p>	<p>資料「平和のとりでを築く」を読み，自分の考えをもとう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「平和」からイメージすることを交流する。 ・「平和のとりでを築く」を読み，初発の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科や今までの学習，読書体験や新聞などで得た情報なども，思いつくままに出し合うことで，これからの学習に対する意欲がもてるようにする。
	2		<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの初発の感想を読み合う。 ・心の中に平和のとりでを築く，とはどういうことなのかを話し合い，自分なりの考えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一覧にして読み合いやすいようにしておく。 ・平和を壊す戦争や争いを引き起こす人間の心を，身近な事例をもとにしながらかえさせる。 ・友だちの意見も生かしながら「平和を守るための心」に気付かせる。
二	3	<p>【関】・自分の考えを明確に表現しようとしている。 ☆発言・ノート</p>	<p>自分の考えを確かにするために調べて，意見文を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仮の要旨」を書く。 ・グループで「仮の要旨」を聞き合い，意見を交流する。 ・意見文の例を読み，意見文を書くためのポイントを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和」について最も訴えたり，伝えたいことを考えるようにする。 ・第2時で書いた文章を参考にする。 ・友だちの意見を聞くことで，自分の「仮の要旨」を確かめられるようにする。 <p>○意見文のポイント</p> <p>※読み手に理解されやすくするために，実際にあったことや，それらの記録（具体例や引用など）と，自分の考えを区別して書くこと。</p> <p>※異なる考えや反論を取り上げ，それに対する自分の考えも入れると説得力が増す。</p> <p>をおさえる。</p>

④ 5	<p>【言】 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んでいます。 ☆資料カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮の要旨」を見直し、説得力をもたせるための資料に、どんなテーマの内容の本が欲しいかを考える。 ・「仮の要旨」に、説得力をもたせる具体例や資料を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が必要とする資料を探すためのキーワードをはっきり持つことが、次時からの資料集めの大事な鍵となるので、しっかり考えさせる。 ・資料を手にする前に、自分はどんな内容のものが欲しいのかをきちんと持たせるようにしたい。 ・「戦争の悲惨さ」「なぜ、戦争がおきるのか」「平和への取り組み」など、子どもたちが、できるだけ自分の意見の根拠となる資料や、具体例を手にすることができるような図書の配架を工夫する。 ・読むことに集中してもよいことを伝える。 ・必要な資料をみつけたら、資料カードに記入することと、その本に付箋をつけておくようにすることを伝える。
6		<ul style="list-style-type: none"> ・おすすめの本を紹介しあったり、情報を交換しあったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの友だち全員の「仮の要旨」を掲示しておき、情報コーナーを設けて、友だち同士で資料を紹介しあうことができるようにしておく。
7	<p>【書】 目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理している。 ☆ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「仮の要旨」を修正し、要旨を確定する。 ・基本的な意見文の構成を理解する。 ・自分の意見が効果的に伝わる文章構成を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分がいちばん訴えたいこと」と、「仮の要旨」の内容を常に意識し、適切な例や資料であるかを考えさせる。 ・集めた資料を使うことができる要旨にすることもあることを認める。 ・これまでに学習してきた文章の型（頭括型、双括型、尾括型）を思い出し、どこに筆者の主張が書かれていたかを思い出させる。 ・段落のつながりを考えながら、文章全体の構成を考えるようにする。

	モ	<p>告しあい、スピーチで大切なことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピーチメモを作る。 	<p>弱、間のとり方や発音・声の抑揚など、観点を分担して、聞き取ったことを出し合うようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初の言葉やキーワード、話し方の工夫やト書きのようなものを書き込むことや、大事な言葉を目立つようにすることなど、様々な工夫をアドバイスする。
14	<p>【話・聞】場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張している。 ☆スピーチ・助言カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・二人組でスピーチの練習をする。 ・グループでスピーチ練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿を読まないようにし、すらすらと話ができるように練習させる。 ・聞き手は、前時の手分けした観点から話し手に助言を行うことができるように、手渡せる小さなカードを用意しておく。
15	<p>【話・聞】・話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして、考えをまとめている。 ☆スピーチ・振り返りカード</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチ大会をする。 <p>話し手</p> <ul style="list-style-type: none"> ※声の大きさ、速さ ※声の強弱・高さ・間の取り方 ※姿勢、視線 ※資料の見せ方 <p>聞き手</p> <ul style="list-style-type: none"> ※内容について・話し手の意見は自分の意見と比べてどうか。 ※技術・効果的な話し方だったか。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のスピーチを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手としての観点を確認して聞くようにする。 ・練習グループのメンバーとは別のグループをつくって発表するようにする。 ・常に、聞き手が話し手の意見をどのように受け止め、どのような考えや感想を持つことができるかが大切であることに注意できるように助言する。 ・聞き手からの助言カードをもとにし、また、友だちのスピーチを聞いて考えが深まったことがあればまとめておくように伝える。

8. 本時の展開

(1) 本時の目標

「仮の要旨」の根拠となる資料を探す手掛かりを知り、進んで自分に必要な資料を集めようとすることができる。

(2) 本時の展開 (4 / 15 時間)

評価規準と評価方法 (☆)	学習活動	指導上の留意点 【評価】
<p>【言】目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読んでいます。 ☆態度・資料カード</p>	<p>1. 自分の「仮の要旨」と欲しい図書資料のキーワードを確認する。</p>	<p>・「仮の要旨」に説得力をもたせるために、どんな資料がほしいのかを明確にするようにしたい。</p>
	<p>自分の意見に説得力をもたせるための資料を、読んだり調べたりして集めよう。</p>	
	<p>2. ブックトークを聞いて、どんな図書資料がどこにあるのかを知る。</p>	<p>・コーナーごとの本を紹介することで、自分の「仮の要旨」にふさわしい本を見つける見当がつけられるようにする。 ・ショックをうけないように、写真集は、残虐なものもあることを知らせておく。 ・手にした本は元の場所に戻すことを確認して、コーナーの維持をはかる。 ・必要な本をみつけたら、資料カードに題名とページ、配架場所をメモし、クラスカラーの付箋に記名して本のページに付けることで、後で手にしやすくすることを伝える。</p>
	<p>3. 資料を読んで探す。</p>	<p>・表紙から受ける印象を大事にして、本を並べておくようにする。 ・「仮の要旨」とキーワードが書いてあるノートを持って活動することで、一人ひとりを見とって声をかけていく。 ・必要に応じて、本の目次や肩見出し、索引の使い方を指導して、資料をみつける手助けをする。 ・「仮の要旨」を考え直すことも認める。</p>
<p>4. 必要な資料を手にするまでの方法について情報交換する。</p>	<p>・欲しい資料にたどりついた子どもを取り上げて、その資料を探し出した手順を紹介してもらい、資料の探し方を共有できるようにする。</p>	